学べる道具 VOL.12

岡崎むかし館

動画ー撮る楽しみ・見る楽しみ

赤ちゃんの愛らしい姿、運動会や発表会などの行事、遠足や旅行…家族の記録を残すため、多くの家庭にデジタルビデオカメラが１台はあることでしょう。少し前まではカセットなどの別媒体に記録しなければなりませんでしたが、今では本体に直接、しかも長時間記録できます。それどころか動画撮影は、もはや携帯電話の一機能でしかありません。デジタルカメラでも切り替え操作一つで簡単に動画撮影できますし、家電量販店では手のひらに収まるほど小さなビデオカメラが、消耗品程度の値段で販売されています。またインターネット上には、世界中の人々が撮影した動画が次々と発表され、私たちもそうした動画を、テレビ番組を見るように気軽に楽しんでいます。

十数年前にはほとんどの人が想像もしていなかったこうした状況は、私たち人間が、映像を記録することに強い好奇心を持ち、そこにたいへんな力を注いできたことの裏返しともいえましょう。

さて、エジソンの「キネトスコープ」やルミエール兄弟の「シネマトグラフ」といった映画の誕生以来、動画撮影には、フィルムが記録媒体として長らく使用されてきました。フィルムの規格はいろいろありましたが、おおよその区分けとしては、映画館用：３５ミリ、テレビ・学校教育・自主制作用：１６ミリ、家庭用：８ミリとなっていました。動画を撮影することはかなり専門的な作業で、撮影機にはそれぞれの時代の先端技術が施されてきました。

１９８０年代前半にカメラ一体型ビデオテープレコーダーが登場すると、家庭での動画撮影はたいへん簡単になり、小さな子どもでもボタンひとつで撮影できる今の時代へと急速に進化していきました。一方商業映画では、撮影から編集・配給・上映に至るまで、フィルムを一切使用しないデジタルシネマが急速に普及し始めています。高価な機材を調達できず、閉館せざるを得ない老舗の映画館もあるようです。技術の進展は歓迎できる一方、失われてしまう記録も数多くあるのではないでしょうか？悩ましいところです。

８ミリ撮影機

エルモ　SUPER 8 SOUND 350SL MACRO

1976年

岡崎むかし館　蔵

８ミリ映写機

エルモ　ST-1200 HD

1977年

岡崎むかし館　蔵

㈱エルモ社について

…1921（大正10）年に名古屋で誕生した映写機・撮影機のメーカー。昭和初期に開発した８ミリ・9.5ミリ・16ミリ兼用映写機「躍進号」での技術は、当時世界の最先端を走っていたアメリカやフランスをも驚かせたといわれています。1960～70年代にかけての８ミリフィルム撮影全盛期においては、数々のヒット商品を世に送り出しました。現在はプロジェクターや監視用カメラなどを中心に製造・販売しています。

参考文献：『世界の「絶版」名品銘機』講談社、１９９８

上記資料の年代特定にあたっては、㈱エルモ社より貴重な情報をご提供いただきました。この場を借りてお礼申し上げます。